

動物の体のつくりと働き

第1時【 月 日 ( ) 】

2年 ( ) 組 ( ) 号 氏名 ( )

1. 課題

--

2. 使用する試薬

- ヨウ素液・・・デンプンの有無を調べることができる。  
→デンプンと反応すると ( ) 色に変化する。
- ベネジクト液・・・麦芽糖などの有無を調べることができる。  
→加えて加熱すると、( ) の沈殿が生じる。

3. 実験の計画を立てる。

・個人で実験の手順を考えてみよう。
・実験の手順を整理しよう。
手順① _____
手順② _____
手順③ _____
手順④ _____
【準備するもの】
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

2年 ( ) 組 ( ) 号 氏名 ( ) 第2時【 月 日 ( ) 】

課題

4. 実験を行う。

※実験の注意点※

- ・ 試験管を加熱する際は、突沸<sup>とっぶつ</sup>を防ぐために沸騰石を入れる。液の量は試験管の1/4以下にして、試験管の口を人に向けてない。
- ・ それぞれの試験管にシールを貼り、4つの試験管を混同しないように注意する。
- ・ 湯の温度は37～40℃の範囲で調整する（ヒトの体温と同程度にする）。
- ・ ベネジクト液が体や衣服についたら、すぐに多量の水で洗う。

5. 実験の結果を記入する。

	ヨウ素液の反応		ベネジクト液の反応	
	試験管 A (デンプン+だ液を含む水)	試験管 B (デンプン+水)	試験管 C (デンプン+だ液を含む水)	試験管 D (デンプン+水)
予想				
結果				



試験管 A と試験管 B の実験の結果から分かること



試験管 C と試験管 D の実験の結果から分かること

6. デンプンに対するだ液の働きについて、実験の結果を基に考えをまとめる。

試験管Aと試験管Bの実験の結果の比較から、

---



---

試験管Cと試験管Dの実験の結果の比較から、

---



---

よって、

---

と言える。

7. ①本時の学習で学んだこと、②これから学んでいきたいことを記入する。

①

---



---

②

---



---